



# 活動実践事例の紹介

## 【児童と高齢者をつなぐクリスマスカード】

301 (作草部・天台) 地区部会

301地区部会(作草部・天台地域)では、ボランティア推進校でもある都賀小学校と協力し、4年生から6年生の児童が地域に住む独り暮らしの高齢者に、クリスマスカードを送る活動を続けています。

児童が工夫を凝らして作ったクリスマスカードを預かり、民生委員児童委員さんを通して、地域の高齢者にクリスマスカードを届けます。

恒例となっているクリスマスカード作りについて、実際にカードを作っている児童達の声を紹介します。

「私はクリスマスカードを作っている時に、改めて地域の人たちにお世話になっているなと思いました。感謝の気持ちが伝わるように工夫して作りました。楽しい気持ちになるといいなと思いました。(5年生)」



(冬に届く暖かい贈り物です)

毎年、クリスマスカードを楽しみにしている高齢者の方も多く、クリスマスカードを送ってくれた児童達へお礼の手紙を送ってくださる方もいます。

こうした地域の児童と独り暮らしの高齢者との間で、暖かい心の交流が今後とも末永く続いていくことを願っています。

## 【18年目を迎えた「正月行事」】

稲丘地区部会

千葉市社会福祉協議会稲丘地区部会の「正月行事」が、1月12日(土)に稲丘小学校体育館、校庭にて行われました。お天気に恵まれ、穏やかな日で「正月行事」には絶好な一日となりました。

子供たちは、杵を持ってお餅をつき、つくたてのお餅を味わったり、凧揚げ、羽つき、福笑い・カルタ取りなどの昔の正月遊びを楽しみました。沢山の歓声と笑顔がありました。役員、そして当日の協力者135名と先生方をはじめ、大勢の方々がご協力くださり、大きな行事を成し遂げることができました。総勢600名を越える稲丘地区部会の「正月行事」は、「正月行事」実行委員会を立ち上げて、地区部会常任理事・各町内輪番の当番庶務・PTA担当者(50名)・各町内自治会選出の担当役員・その他の方々と会議を重ね準備をしてきました。



(心のこもったカードを預かります)

「クリスマスカードを作っている時、わたしはお年寄りの方に喜んでもらえるとうれしいなと思ったので、楽しいしかけやたくさんのメッセージを書きました。完成してどのような方にわたって喜んでくれるのか、ドキドキしました。そして、たくさんのお年寄りの方にクリスマスカードがとどいたら、手紙などをくれてすごうれしくて、書いてよかったなと思いました。5年生でもまた書きたいです(4年生)」

「今回のクリスマスカードはどうでしたか?わたしは、地域の方がわたし達の作ったクリスマスカードを見て、喜んでくれる姿を想像しながらカードを作りました。わたし達6年生はもうすぐ小学校を卒業します。6年間いろいろなところで地域の方々にささえてもらい、本当にありがとうございました。(6年生)」



(上手に福笑いができたかな?)

地域の方々にも「正月行事」が浸透してきており、今年は嬉しいことに地域からの協力者が増えました。

行事を通して地域との繋がりが持て、地域みんなでひとつの行事に取り組むことができました。有り難い思いで一杯です。そして“地域全員知人運動”・助け合い、支え合いの仕組み作りが、徐々に出来上がってきていると思いました。私も顔見知りの方が増え、挨拶の輪が広がっています。



(みんなで食べるお餅はおいしいね！)

「正月行事」担当庶務をやらせて頂き、不安のある中、井村会長から「ひとりじゃないよ、みんなでやるのだから」の言葉に励まされてきました。みんなの力の大きさを感じ、そして先輩方の手際の良さに驚き、懐の深さを感じ、対処の仕方を見聞きして、私自身学ぶことが沢山ありました。みんなに助けられて、今年の「正月行事」が何事もなく安全に終わることができ、感謝の気持ちで一杯です。

(稲毛地区部会「正月行事」実行委員会庶務係 田中美登里)



(力を込めてヨイショッ！)

## 【ふれあい広場】

### 稲毛地区部会

児童母子福祉委員会主催の“ふれあい広場”を2月24日(日)に開催しました。地域の小学1年生から6年生の子どもたちに「みんなで楽しく遊ぼう」と御案内を出して参加希望を募り、当日は約100名の子どもたちが集まりました。稲毛公民館を借り切り、この日1日は子どもたちに開放していただき、1日中子どもの声が響き渡りました。

裏庭の「お餅つき大会」では30キロのお餅つきを行い、子どもも順番につきました。稲毛中学校の生徒の手伝いもあり、からみ餅・きな粉餅・お雑煮と楽しい語らいの中で食べました。

また、珍しい工作として、地域の遠藤さんの指導で「カエルの親子」を、地域で育った青竹で目をボンドでつけて作りました。これまでのふれあい広場では、紙玉鉄砲・竹馬・浅間神社の飾り等を作りました。

調理教室では、地域の食文化「浅間まんじゅう」を作りました。希望者が50名もおり、調理教室が狭く大変でしたが、子どもたちは「作り方を覚えて帰り、家で作りたい」と大騒ぎで取り組みました。昔遊びのコーナーもあり、稲毛小の子どもたちの作った「カルタ」遊び・陣取りゲーム・ペットキャップ等、地域のおじさんと元気に遊びました。



(青竹で作ったカエルの親子)



(まんじゅう作りも大人気！)



(なんでも走らせるマシーンに夢中)

疲れも取れる思いでした。

1人ひとりに作った工作や、浅間まんじゅうのお土産をもらい「お母さんに食べさせてあげる！」と元気に帰っていきました。この子どもたちが、元気に健康で幸せな毎日が送れたらと願いつつ、大人と子どもの絆ができた1日となりました。

(稲毛地区部会長 飯田禮子)

# ご存知ですか？安心カード

現在、稲毛区内でも導入する地区が増えている「安心カード」について取り上げます。

この「安心カード」とはどのようなものかと簡単にご説明しますと、万が一の緊急時に安全と安心を確保するため、医療情報（病歴やかかりつけの病院）・薬剤情報（服薬名）など、本人に関する情報を記入して専用の容器に入れたものです。（保管の方法はいくつか方法がありますが、ここでは冷蔵庫に保管する方法を紹介します。）

よく用いられる方法として、冷蔵庫に保管する方法があります。かけつけた救急隊員等がすぐに安心カードを探し出すことができるように冷蔵庫に保管します。冷蔵庫はどの家庭にもあり、キッチンを探すことで容易に探し出せるうえ、急病の時だけでなく地震などの災害の場合でも、壊れずに情報を保管することができる等の理由から、保管場所に冷蔵庫を選ぶケースも多いようです。

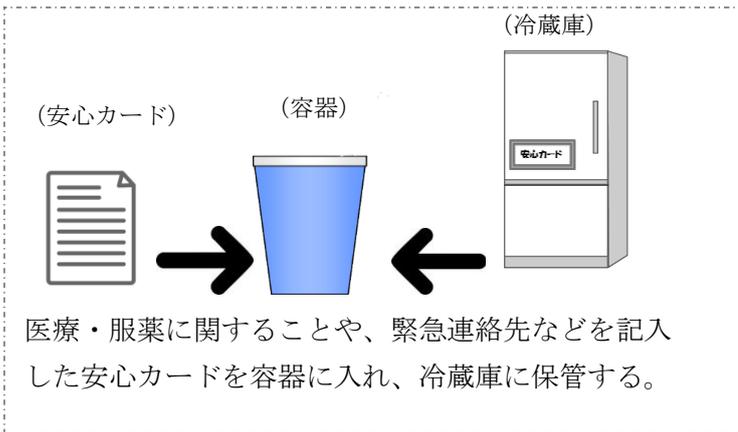
安心カードを保管している冷蔵庫のドアにはシールなどを貼り、わかりやすくしていることも多いようです。救急隊員は冷蔵庫から安心カードを取り出し、医療情報を確認することで適切な救護の手を差し伸べることができます。また、病院や親戚などといち早く連絡を取ることができ、協力を得ることができます。

## 安心カード

記入年月日 年 月 日

被保険者証	ふりがな					男・女
	氏名					
住所	生年月日	大・昭・平	年	月	日	生まれ
	〒					
健康保険証番号 介護保険証番号	住 所	千葉市	稲毛区	あやめ台	3-	号棟 号室
	電話番号	( )				
自宅以外の緊急連絡先	続柄		氏名			
	電話番号 ( )					
血液型	A型 B型 O型 AB型 RH ( )					
既往症						
アレルギー (薬・食物・その他)						
かかりつけ医療機関	医療機関名					
	住所					
	電話番号 ( )					
	主治医名					

(参考：第二あやめ台町内会の安心カード)



冷蔵庫に保管する際には、プラスチック製の筒型の容器に入れられている場合が多く、飲み物などを

入れ場所に収まり、安心カードも汚れず収納しやすいの

が理由のようです。

地域の消防署や警察と協力・連携することにより、その効果をあげています。

万一に備え、みなさんの地区も「安心カード」を始めませんか。

### ◆◆◆◆ 編集後記 ◆◆◆◆

東日本大震災のあった3月に防災関連の事業を行うところが増えています。

いつ起こるかかわからない災害に備え、自分たちができることを最大限準備しておくことが大切です。

建物の耐震や非常用の食糧の用意などと同時に大切なのが地域づくりです。いざという時に助け合える地域を作るのは、日ごろからの交流です。今回は地域での楽しいイベントを紹介しています。あなたの地域ではどんな工夫をされていますか？

(広報委員 矢田房子)